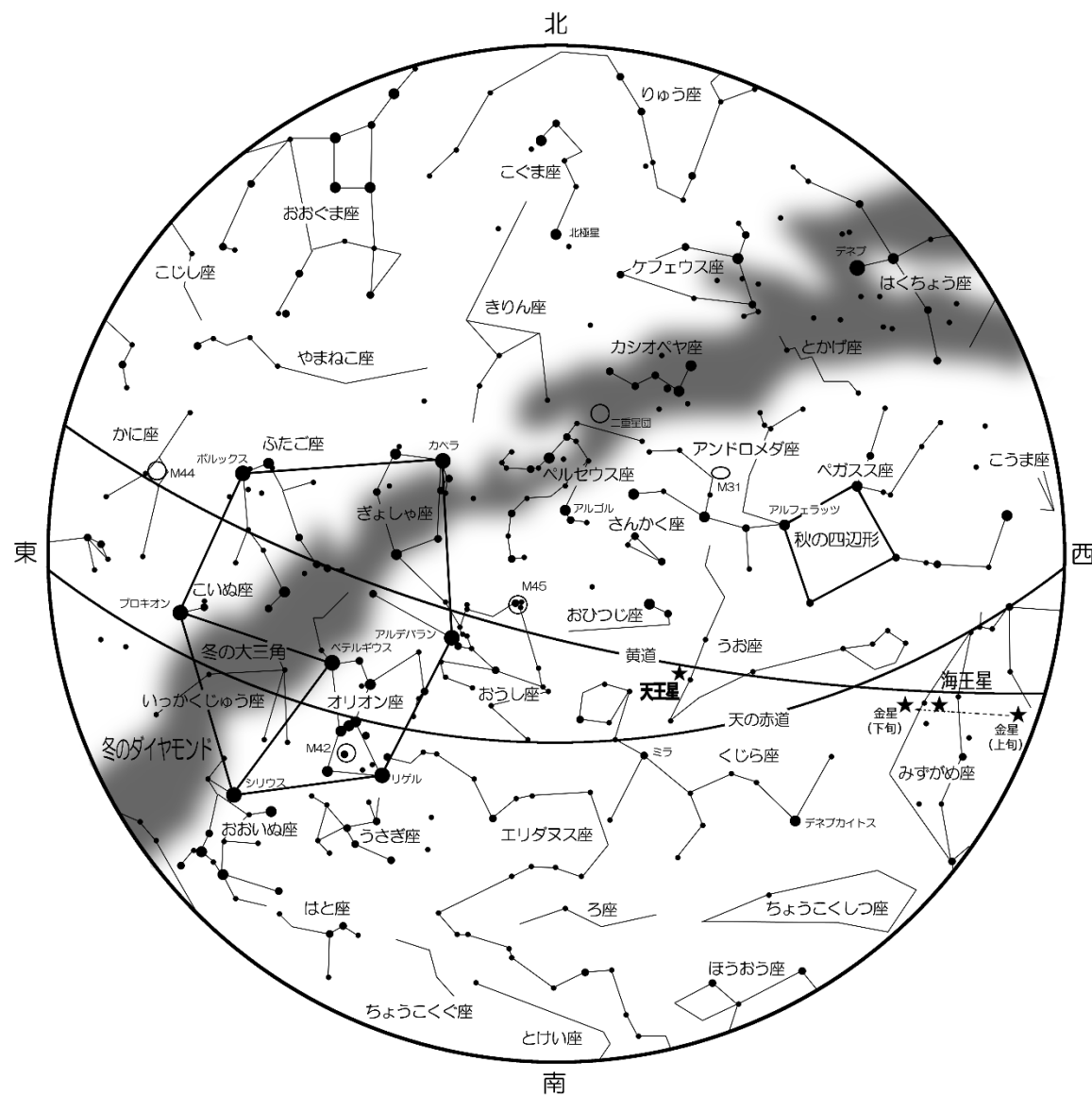


令和2年 1月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



★1月の星空案内

今月の星座探しはオリオン座からスタートです。オリオン座は等間隔に並んだ3つの星“三つ星”が目印。“三つ星”の左上で赤っぽく輝いているのが1等星のベテルギウス、右下で青白っぽく輝いているのが1等星のリゲルです。オリオン座の“三つ星”を北西(右上)にのばしていくと、オレンジ色っぽく輝くおうし座の1等星アルデバラン、反対に南東(左下)にのばしていくと、全天で最も明るく輝くおおいぬ座の1等星シリウスが見つかります。そして、シリウスから東に視線を移していくと、こいぬ座の1等星プロキオンが見つかります。このプロキオン、シリウス、ベテルギウスを結んでできる三角形を“冬の大きな三角”といい、冬の星座探しのよい目印となります。プロキオンの北で明るく輝く星はふたご座の1等星ポルックス。その西側でやや黄色っぽく輝いているのが、ぎょしゃ座の1等星カペラです。このカペラを頂点にして、ポルックス、プロキオン、シリウス、リゲル、アルデバランの6つの1等星を結んでできる大きな六角形を“冬のダイヤモンド”といいます。1等星は久留米の街明かりの中からも見つけることができます。あたたかい格好をして夜空を見上げ、頭上に広がる大きな冬のダイヤモンドをぜひ探してみてください。

< 現在見える惑星 >

水星 (-0.7 等前後): いて座→やぎ座付近	観測に適さない。
金星 (-4.4 等前後): やぎ座→みずがめ座付近	日の入り頃、南西の空でひときわ明るく輝く。
火星 (0.7 等前後): てんびん座→へびつかい座付近	夜明け前、南東の空で輝く。
木星 (-1.8 等前後): いて座付近	観察に適さない。
土星 (0.5 等前後): いて座付近	観察に適さない。

2020年 注目の天文現象(まとめ)

- 1月 4日: しぶんぎ座流星群が極大(17時頃、見ごろは5日未明)
- 3月18日: 夜明け前の南東の空、低いところで月・火星・木星・土星が集合
- 4月 8日: 2020年最大の満月
- 6月21日: 全国で部分日食が見られる(中国や台湾などで金環日食)
(福岡 食の始め15時59分頃、食の最大17時9分頃、食の終り18時11分頃)
- 8月12日: ペルセウス座流星群が極大(22時頃、見ごろは13日未明)
- 10月 1日: 中秋の名月
- 10月 6日: 火星が地球に最接近(準大接近)
- 12月14日: ふたご座流星群が極大(10時頃、見ごろは13日夜の夜半過ぎ: 条件良)
- 12月15日: チリ、アルゼンチンなどで皆既日食(日本では見られない)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
3	金	☾上弦 (13:45)	11	土	半影月食 (最大 4:10)
4	土	しぶんぎ座流星群が極大 (17時頃)	17	金	☾下弦 (21:58)
11	土	☉満月 (4:21)	25	土	☉新月 (6:42)